

新潟県の地震概況 令和5年(2023年)6月

令和5年7月12日
新潟地方気象台

【6月の地震活動概況】

この期間、県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震は2回(最大震度は1)でした。新潟県とその周辺(図1)で発生した地震で、県内で震度1以上を観測した地震は2回でした。(「期間内に発生した主な地震」を参照)。

【6月に新潟県周辺で発生した地震】

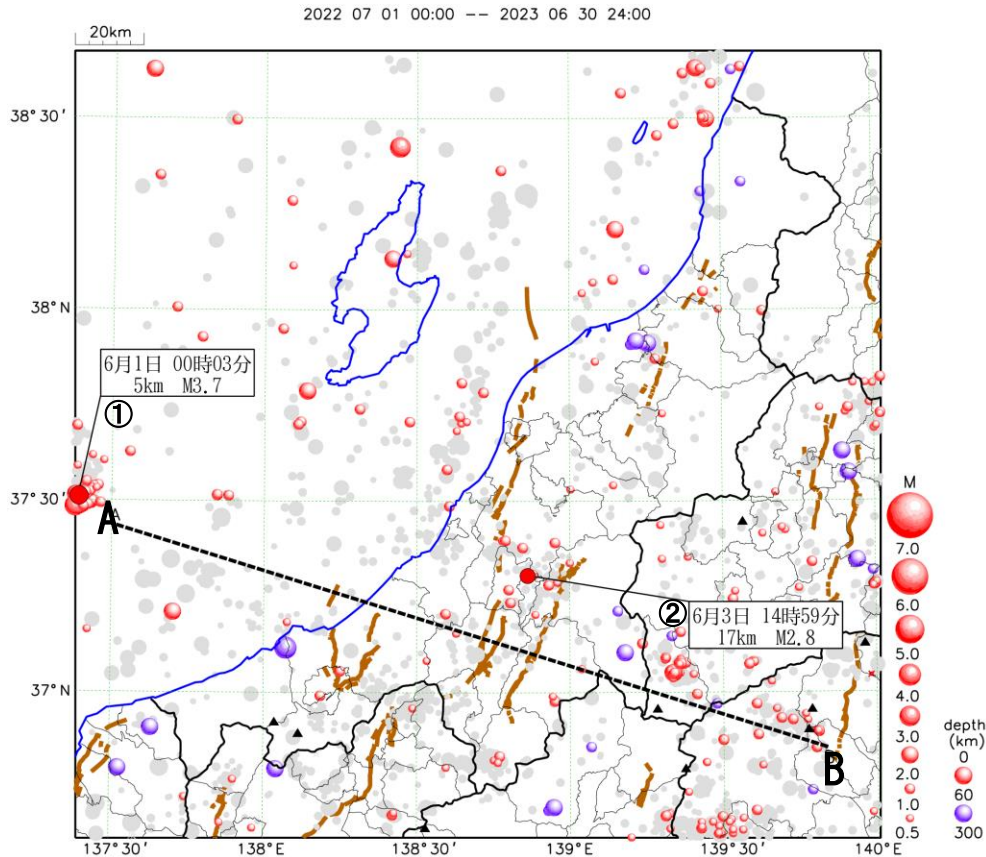


図1 震央分布図(深さ0~300km、M0.5以上)

※過去1年間の地震を表示。令和5年6月に発生した地震を赤又は青、それ以前はグレーで示した。

※図中の茶色線は地震調査研究推進本部で長期評価されている活断層を示す。

※図中の▲は活火山を、⊕は深部低周波地震を示す。

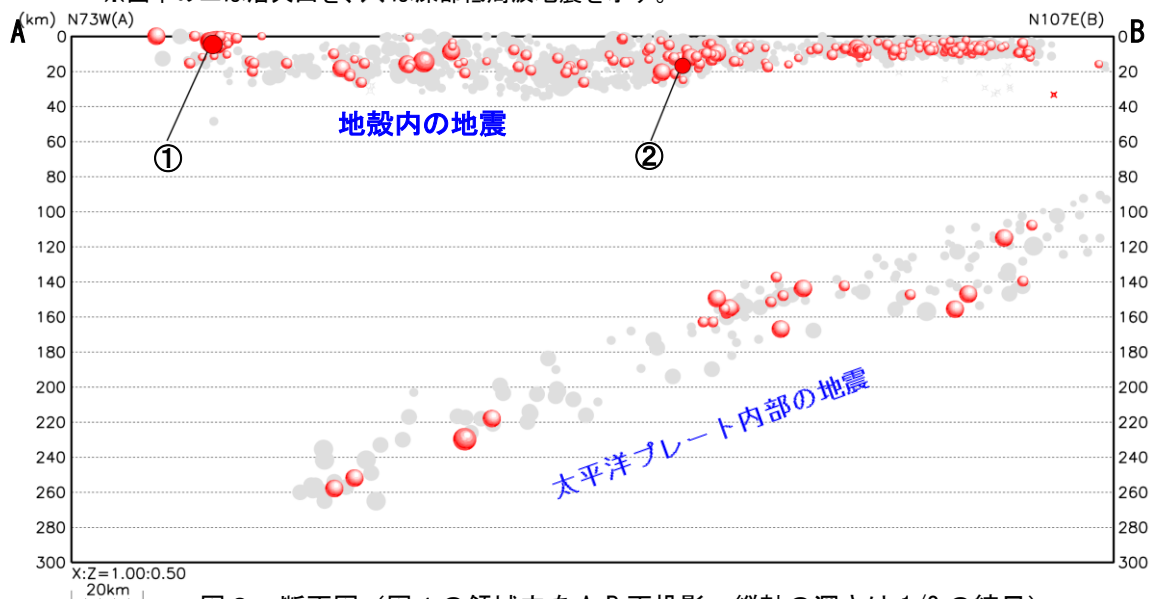


図2 断面図(図1の領域内をA-B面投影: 縦軸の深さは1/2の縮尺)

【期間内に発生した主な地震】

- ① 1日00時03分 能登半島沖の地震 (M3.7、深さ5km) により、石川県珠洲市で震度2を観測したほか、新潟県上越市で震度1を観測しました。この地震は地殻内で発生しました。
 石川県能登地方(珠洲市付近)では2年以上活発な地震活動が継続しており、5月5日のM6.5の地震発生によりさらに地震活動が活発になりましたが、時間の経過とともに、地震の発生数は5月5日のM6.5の地震発生前と同程度に減少しています。
 ※詳しくは金沢地方気象台HPのポータルサイトをご覧ください。
<https://www.data.jma.go.jp/kanazawa/shosai/notojishinportal.html>

- ② 3日14時59分 新潟県中越地方の地震 (M2.8、深さ17km) により、新潟県魚沼市で震度1を観測しました。この地震は地殻内で発生したもので、平成16年(2004年)新潟県中越地震の余震域内で発生しました。

【新潟県内で震度1以上を観測した地震】 期間 2023年6月1日～2023年6月30日

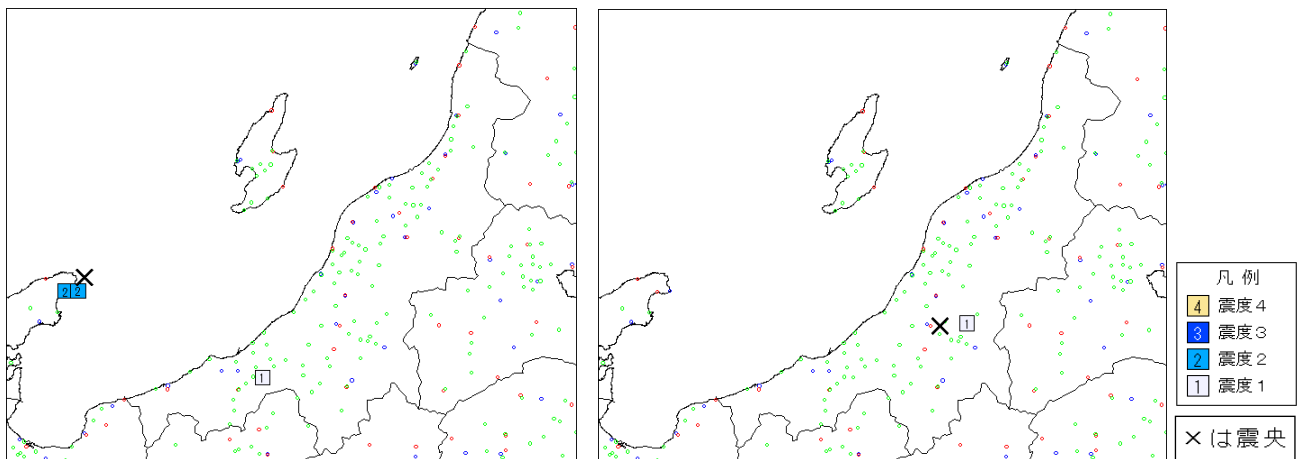
地震の発生日時(年/月/日/時:分)	震央地名	緯度	経度	深さ	規模	全国最大震度
各地の震度 *は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点						
① 2023年06月01日00時03分	能登半島沖	37° 30.6' N	137° 23.5' E	5km	M3.7	2
震度 1: 上越市牧区柳島*						
② 2023年06月03日14時59分	新潟県中越地方	37° 18.3' N	138° 51.7' E	17km	M2.8	1
震度 1: 魚沼市須原*						

【震度分布図】

図中○は震度観測点を示す

① 1日00時03分 能登半島沖の地震
観測点別震度分布図

② 3日14時59分 新潟県中越地方の地震
観測点別震度分布図



【新潟県内で最大震度 1 以上を観測した月別・震度別地震回数表】

年 月	2022 年						2023 年						合計
	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	
震度 1	4	3	2	2	5	1	3	0	3	2	7	2	34
震度 2	0	2	0	1	2	0	1	1	0	0	3	0	10
震度 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	4
震度 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
合計	4	5	2	3	7	1	4	1	3	3	15	2	50

【火山活動状況（新潟焼山）】

新潟県の活火山「新潟焼山」の火山活動状況や警戒事項については、以下の資料をご覧ください。

「新潟焼山の火山活動状況」（気象庁HP）

https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/activity_info/307.html

注) 利用にあたって

- 資料は速報であり後日の調査により変更されることがあります。
- 新潟県内で震度 1 以上を観測した地震の一覧表の震度は、県内のみを記述しています。また、最大震度は、県内または県外での値を記述しています。
- 気象庁では地震の震源、マグニチュード等を算出するにあたり、国立大学法人などの関係機関から地震観測データの提供を受け(注1)、文部科学省と協力して処理を行っています。また、震度の情報は、地方公共団体及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供された観測データを含めて発表しています。

(注 1) 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

- この地震概況は新潟地方気象台ホームページの地震解説資料・地震概況のページに掲載しています。
https://www.data.jma.go.jp/niigata/jishin/jishin_kaisetu_index.html
- 資料についての問い合わせ先：新潟地方気象台電話：025-281-5872

【地震・津波一口メモ】

「津波フラッグ」を見かけたら、速やかに避難しましょう

津波警報等は、テレビやラジオ、携帯電話、サイレン、鐘等、様々な手段で伝えられます。これらに加え、視覚により伝える方法として、令和2年6月から「津波フラッグ」の運用が始まりました。

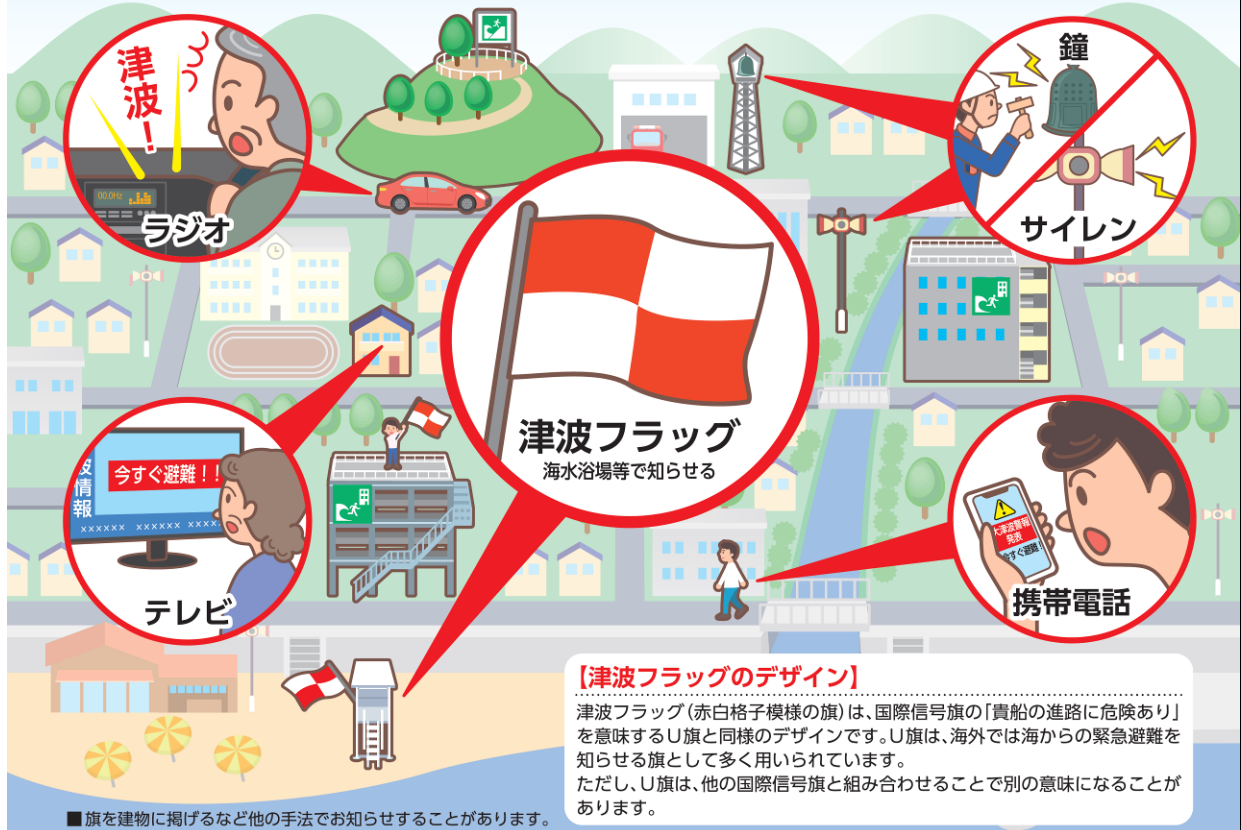
「津波フラッグ」は、海水浴場等において、聴覚に障害をお持ちの方や、波音や風で音が聞き取りにくい遊泳中の方などに津波警報等の発表をお知らせする際に有効です。

海水浴場や海岸付近で「津波フラッグ」を見かけたら、速やかに避難を開始してください。

知る手段

津波警報等*は、テレビやラジオ、携帯電話等で知ることができます。知る手段に、令和2年6月より新しく「津波フラッグ」が加わりました。海岸で「津波フラッグ」を見かけたら、速やかに避難しましょう。

*津波警報等は、大津波警報・津波警報・津波注意報の総称です。



○津波フラッグ導入の背景

平成23年の東日本大震災では、岩手県、宮城県及び福島県における聴覚障害者の死亡率が、聴覚障害のない者の2倍にのぼったとのデータがあり、津波警報等の視覚による伝達のあり方が検討され、導入されました。

○詳細は「津波フラッグ」のページ(気象庁HP)をご覧ください。

https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/tsunami_bosai/tsunami_bosai_p2.html